てんまで　のびろ

ー良寛（りょうかん）ー

「おやっ、あれは、なんだろう。」

なつが　ちかづいた　ある　あさのことです。かおを　あらいに　そとに　でた

りょうかんさまは、えんがわの　したを　みて　びっくりしました。えんのしたに

たけのこが、あたまを　だし、ゆかに　とどきそうに　なって　いたからです。

「これは、こまったぞ。」

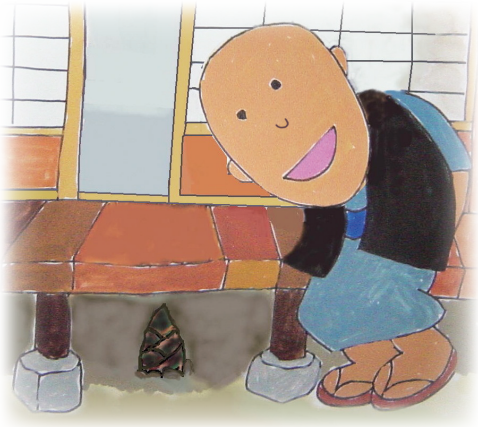
りょうかんさまは、かなづちで　ゆかいたを　はがし、

えんがわに　おおきな　あなを　あけました。あなを

あけて　もらった　たけのこは、ぐんぐん　のびて　いきました。

「おう、これは、げんきな　たけのこじゃ。おおきく　なあれ。」

りょうかんさまは、おおよろこびでした。



それから　とおかほど　たちました。
りょうかんさまは、また　こまって
しまいました。ぐんぐん　のびた　たけのこは、
りょうかんさまより　おおきくなり、やねに
とどきそうに　なったのです。
「これは、こまったぞ。」
りょうかんさまは、いそいで　やまを　おり、
ふもとの　いえに　いきました。
「すまないが、のこぎりを　かして　おくれ。」
いそいで　やまの　おてらに　かえってきた
りょうかんさまは、のこぎりで　やねに
おおきな　あなを　あけました。たけのこは、

あおい　そらに　あたまを　だしました。
「これで　よし。
げんきな　たけのこ
てんまで　のびろ。」
りょうかんさまは、とても
うれしそうでした。
たけのこも　ことりも　こどもたちも、
りょうかんさまには　みんな
たいせつな　ともだちだったのです。

この　りょうかんさまが
じゅうねんあまり　しゅぎょうした
たましまの　えんつうじには、
こどもたちと　たのしく　あそぶ
「わらべ　と　りょうかん」の　ぞうが、
たっています。

「わらべと良寛」の像（倉敷市玉島　円通寺）

岡山県郷土教材道徳科学習指導案　第１学年　**「てんまで　のびろ　－良寛－」**

１　主題名　生き物にやさしく

２　主題設定の理由

(1) 内容項目について

中心とする内容項目は、Ｄ　自然愛護「身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接すること。」である。古来日本人は、自然から受ける様々な恩恵に感謝し、自然との調和を図りながら生活を営んできた。自然や動植物を愛し、自然環境を大切にしようとする態度は、地球全体の環境の悪化が懸念され、持続可能な社会の実現が求められている中で、特に身に付けなければならないものである。

そこで、動植物や自然と接した体験をもとに、それらに親しみを感じ、自分たちを取り巻く自然環境を大切にしたり、動植物を愛護したりしようとする態度を養っていきたい。

(2) 児童の実態について

この時期の児童は、動植物に対する興味や関心が強い。草花や野菜を育てたり、小動物の世話をしたりする経験のある児童がほとんどである。しかし、一方で、水やりや草抜きなどの世話を忘れたり、飼育に飽きると世話を投げ出したりする姿が見られる。これは、動植物の生命や世話の重要さにまでは目が向いていないためだと考える。

そこで、自然や動植物と触れ合う活動や体験を通して、自然や動植物のもつ不思議さ、生命の力、共に生きていることのいとおしさなどを実際に感じ、自然や動植物を大事に守り育てようとすることのできる児童を育てたい。

(3) 教材について

この教材は、玉島の円通寺で十年あまり修行した僧、良寛の逸話である。住まいの縁の下に頭を出した竹の子が日一日と伸びて、とうとう床板につかえそうになった。これに気付いた良寛は、床板に穴を開けた。竹の子はどんどん伸び、屋根につかえそうになった。今度は、良寛は屋根に穴を開け、天高く伸びていく竹の子の成長を喜んだという内容である。

竹の子のために、床板や軒先の板をはがすことは、考えにくいことであるが、竹の子の成長を見守り、大事に育てながら、共に生活しようとする良寛の考えに共感できるようにすることにより、自分たちも動植物を大事にしながら、自然を大切に守っていこうとする気持ちを育てたい。

◇板書例

てんまで　のびろ　－りょうかん－

めあて
どうしてたけのこをたいせつにしたのだろう。

ゆかにとどきそうなたけのこをみたとき

・かわいいなあ。
・でもきらないといけないな。
・なんとかおおきくしたいな…。

やねにとどきそうになったとき

・たけのこをきろうかな？
・やねをきろうかな？
・こまったな　どうしよう？
・たけのこも　いきている。
・もっともっと　たけのこが
おおきくなってほしい！
・おおきくなるとうれしいな。
・ともだちみたいにおもって
いるよ

あおいそらにのびた　たけのこをみて

・きらなくてよかった。
・たけのこも　よろこんでいるな。
・どんどん　のびろ　てんまで
のびろ。

◇たけのこが　おおきくそだってほしいな。
いきものにやさしくし、だいじにしたいな。

○しょくぶつや　どうぶつに
やさしくできたこと

◇参考

良寛（1757～1831 年）。現在の新潟県出雲崎町に生まれる。光照寺玄乗和尚の弟子となり良寛と名乗る。22 歳のとき、倉敷市玉島の円通寺国仙和尚の下で修行に入る。75 歳で死去。

参考文献　山本和夫「良寛さま　子どもが大すきな、やさしい坊さん」偕成社

3　ねらい

良寛はどうしてこんなに竹の子を大切にしたのかを考える中で、動植物の生命に親しみを感じ、優しく大切にすることの素晴らしさに気付き、動植物を大切に守り育てようとする態度を養う。

4　展開

○は基本発問　◎は中心発問

学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
1　「てんまでのびろ　－良寛－」を読んでめあてをつかむ。	○　良寛さんの行動で「あれ？」と思ったことはありましたか。 ・どうして床の板をはがすのだろう。 ・屋根まで切って竹の子を伸ばしたのが不思議だな。 どうしてたけのこをたいせつにしたのだろう。	・良寛について紹介し、資料への導入を図る。 ・絵話の後の児童の率直な感想から、良寛の行動の意外性を確認し、「どうしてそこまで竹の子を大切にしたか」というめあてをつかませる。
2　良寛さんの気持ちを考える。	○　床に届きそうな竹の子を見て、良寛さんはどんなことを考えたでしょう。 ・かわいいなぁ。でも、切らないといけないな。 ・なんとか大きくしたいなぁ。 ◎　屋根に届きそうになった竹の子を見て、良寛さんはどんなことを考えたでしょう。 ・竹の子を切ろうかなぁ。 ・屋根を切って竹の子を伸ばそうかなぁ。 ・困ったなぁ。どうしよう。 ・竹の子は大きくなろうとがんばっているな。 ・もっともっと大きくなってね。 ・竹の子が大きくなるのを見るとうれしいな。 ・友達みたいに思っているよ。大事にしたいな。 ○　青い空に伸びた竹の子を見て、良寛さんはどんなことを思ったでしょう。 ・途中で切らなくてよかったな。 ・竹の子も喜んでいるな。 ・どんどん伸びて、大きく育ってほしい。 たけのこが大きくそだってほしいな。 いきものにやさしくし、だいじにしたいな。	・どうしたらよいか迷う良寛の気持ちを共感的に捉えることができるようにする。 ・役割演技で教師が演じる竹の子に向かって呼びかけをさせることにより、良寛の竹の子に対する優しさを実感できるようにする。 ・「どうして大切にしてくれるの」と教師が問いかけ、竹の子を友達のように思い、その成長を願う良寛の気持ちに気付くことができるようにする。 ・「てんまでのびろ」に着目させ、空高く伸びていっている竹の子の成長を喜び、とても満足している良寛の気持ちに気付くことができるようにする。
3　今までの自分を振り返る。	○　みんなはどんなものを育てていますか。 ○　植物や動物にやさしくできたことがありますか。 ・あさがおの芽はかわいかった。毎日水やりをしたよ。 ・子犬をだっこしたよ。あたたかかったよ。	・動植物の生命に親しみを感じ、優しく接していた自分を見付けることができるようにする。
4　教師の話を聞く。	○　植物や動物を大切にしている人を見付けました。 これからもしょくぶつやどうぶつを もっともっとたいせつにしていきたいな。	・自然を大事に守り育てようとしているくらし方について事例を紹介することで、意欲を高める。
評価の観点	・友達のように自然や動植物に対して親しみを感じ、自然や動植物に優しくし大切にすることのすばらしさに気付くことができたか。 ・動植物に優しい心で接し、大切に守り育てていこうとする意欲をもつことができたか。	

5　他教科等との関連

生活科の学習や日常の生活、飼育栽培活動の中で、動植物との触れ合いと関連させながら、動植物に親しみをもち、守り育てていこうとすることができるようにする。